

## 第1回 退院支援・医療介護連携部会報告書

日時	平成31年4月18日(木) 19:00~20:20				
場所	高松市医師会館 2階大会議室				
出席者	<input checked="" type="checkbox"/> 吉澤委員長 <input type="checkbox"/> 林委員 <input checked="" type="checkbox"/> 永岡委員 <input checked="" type="checkbox"/> 和田委員	<input checked="" type="checkbox"/> 松本部長 <input checked="" type="checkbox"/> 香西委員 <input checked="" type="checkbox"/> 坂東委員	<input checked="" type="checkbox"/> 岡委員 <input checked="" type="checkbox"/> 田中委員 <input type="checkbox"/> 古川委員	<input checked="" type="checkbox"/> 片山委員 <input checked="" type="checkbox"/> 辻委員 <input type="checkbox"/> 三宅委員	10名
事務局	高松市医師会事務局 山地係長、真鍋氏 地域包括支援センター 坂上補佐 長寿福祉課 徳重主幹、久保補佐、長樂係長 在宅医療支援センター 篠原			7名	
議題	1 新委員等の紹介 2 部会 年間スケジュールの確認 3 高松市入退院支援ルールの作成について				
結果	<p><b>1、新委員等の紹介</b></p> <p>◆資料のとおり</p> <p><b>2、部会 年間スケジュールの確認</b></p> <p>◆資料のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回医療介護連携ミーティングまでに、入退院支援ルールを実際に使用にできるような形に取りまとめて周知等ができるように取組む。</li> <li>・第2～3回は事例検討を行う予定。</li> <li>・メディカルケアステーション ICT 部会との連携。</li> <li>・実際の困難事例を使うことについて、本人の承諾をどのようにとるのか、今後、学術的な面から確認していく必要がある。</li> </ul> <p><b>3、高松市入退院支援ルールの作成について</b></p> <p>◆たかまつ安心キットの有効的活用についての検討</p> <p>○御意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中身の情報は随時更新が必要だが、誰かが声掛けしないと更新できない。</li> <li>・最初はケアプランに反映しましょう、ということだったが、現状は反映していない。</li> <li>・お薬手帳・介護保険証・受診券等、必要なものがすべて揃っているのが理想的。</li> <li>・本体ケースでは容量が小さいため、本体ケースも入れることができる手提げ袋のような形がいいのではないか。</li> <li>・訪問診療時、救急対応時に、有効な医療情報がまとまっているものにしたい。</li> <li>・災害時にも、それ一つ持って避難すればいいというものになれば理想的。</li> <li>・本体ケースの在庫はたくさんあるので、それを活用する方法を考えたい。</li> </ul> <p>◆入退院支援ルールの目的</p>				

○御意見

- ・地域共生社会・福祉の観点から、高齢者のみならず、障がい者、障がい児及び医療的ケア児も対象として検討すべきだが、今後の運用の広がりを見て、先で検討することとする。

◆情報共有の内容

(国の支援を受けて早くから入退院支援ルールを取り入れている福井県を参考にして検討)

○御意見

- ・基本情報の中に、保険情報が必要。
- ・病歴、既往症についての情報が必要。
- ・あまり詳細な情報になりすぎると、診察時に読み込みが困難。
- ・生活状況・環境(独居、坂道の上に住んでいる、買い物困難、町中に住んでいるが近所付き合いがない等)が分かれば、有効なのは。社会的支援・人的支援がどれくらいあるのかが分かるようにすべき。
- ・かかりつけ医は、診療科目に応じて複数の記載ができるようにすべき。

◆留意事項

○御意見

- ・様式の更新を、念頭において考えるべき。
- ・災害時等を想定し、材質・保管方法等も考えるべき。
- ・入院時に、作成したが受入不可になったらどうするのか等、運用を詳細に考えるべき。
- ・退院時に、入所施設の連携している医療機関に送るだけでよいのか、入所施設にも送るべきなのか明確にすべき。
- ・例えば、受入不可のため、診断書としての情報提供書を乱発することになれば、利用者の費用負担が増えることに注意すべき。また運用の仕方で、作成作業の手間が増えることも留意すべき。
- ・感染症の情報を含めるべき。ただ、最新の情報でなければ、意味がないことにも留意すべき。

◆進め方

- ・矛盾点、改善点、要望等を記入できる様式をメールにて配布。次回5月23日(木)に集約・検討できるように、5月7日(火)までに記入して事務局に提出のこと。
- ・当会の中でワーキンググループ(岡委員、辻委員、永岡委員、和田委員、松本委員)を作る⇒親会議や部会で諮る⇒第1回のミーティング(7月下旬頃)において周知し、多職種間で協議したい。
- ・第1四半期でとりまとめ、早い段階で試行していきたい。

4、その他

◆医師会の在宅医療ネットワーク連絡協議会について

- ・日時:5月10日(金)19:00～
- ・場所:医師会講堂にて
- ・内容:在宅医療の診療報酬を考える

◆第2回の退院支援・医療介護連携部会の開催について

- 日時:5月23日(木)19:00～とする。